

News Letter



文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)
YAMANASHI NETWORK
FOR DIVERSITY & INNOVATION

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)



Vol.6 2022年3月発行

ご報告

令和3年度 「山梨大学男女共同参画講演会」 を開催しました



令和3年12月8日(水)、山梨大学男女共同参画推進室および地域人材養成センター主催、山梨大学大学院教育マネジメント室、シミックホールディングス株式会社、株式会社はくばく共催「令和3年度山梨大学男女共同参画講演会」をZoom配信にて開催しました。

講師として、一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所 代表理事、株式会社モリヤコンサルティング 代表取締役の守屋 智敬 氏を招聘し、「『アンコンシャス・バイアス』を知る、気づく、対処する」と題してご講演いただきました。

講演では、「無意識の偏ったモノの見方」である「アンコンシャス・バイアス」について身近な事例を挙げて説明されました。「アンコンシャス・バイアス」は日常にあふれていて誰にでもあるものであること、それに気づき対処することで人間関係に変化がおとずれたり、自分の可能性が広がったりすることなどをお話いただきました。講演はZoomによる参加型で、参加者が投票やチャットで自分の意見を発表する場面もあり、インタラクティブで活発に行われました。

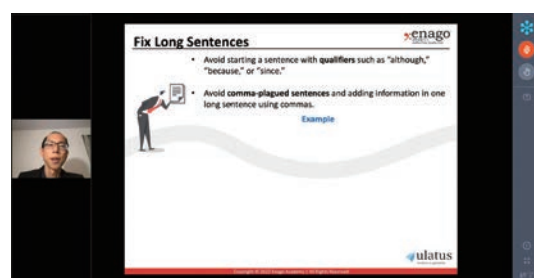
講演会には、114名が参加しました。講演会後のアンケートでは、「参加型の講演で、非常に楽しく面白く参加できました。」「『アンコンシャス・バイアス』という言葉を知りました。なかなか気付けないことも今日気付くことができ、とても有意義な時間を過ごせました。」「職場の中でミーティングを多く行うため、大変参考になりました。先ずは一週間、自分のアンコンに気付くようにメモを取るようになります。」等の感想をいただきました。

ご報告

第3回スキルアップセミナー 「英語論文の書き方オンラインセミナー」を開催しました

令和4年2月1日(火)、山梨大学および山梨県立大学の教職員・学生、シミックホールディングス株式会社および株式会社はくばくの社員を対象としたスキルアップセミナー「英語論文の書き方オンラインセミナー」を開催しました。英文校正エナゴの協力を得て、増田 直紀 氏(米国ニューヨーク州立大学教授)を講師として招聘し、「学术论文の執筆スキルを向上させる方法(中級)」と題してご教授いただきました。

このセミナーには、143名(セミナー後の視聴も含む)が参加しました。参加者からは、「普段の英語文書作成業務にてすぐに応用したいと思えるような、非常に有意義な内容でした。」「先生の実体験(自分はこう対応した、こう直されたことがある等)を交えて話されている点が非常に参考になりました。」等の感想をいただきました。



ご報告

ナシダイResearchers Vol.9を発行しました

令和4年3月、山梨大学の研究者を紹介する冊子ロールモデル集『ナシダイResearchers』を発行しました。この冊子では「研究者になったきっかけ」についてだけでなく、各研究者の「癒し&気分転換の方法」「中高生におすすめの体験」についてもご紹介いただきました。この冊子は、本学教職員・学生のほか、山梨県内の中学校、全国の高校、他大学等へ配布しました。

ご協力いただいた12名の先生方、職員・学生のみなさまに改めて御礼申し上げます。後日、Web版をホームページにも掲載予定です。



ご報告

令和3年度地域貢献型研究支援を行いました

本事業では、「女性研究者育成」を連携の中心に置き、産学間の活発な人材交流によって、女性の能力を生かしたイノベティブな研究を推進する環境を創設し、地域人材の育成と産業活性化への貢献を目指しています。

取組の一つとして、地域の活性化につながる共同研究を進めている女性研究者を対象とし、令和3年度は公募により下記の10件に研究支援を行いました。

	所属	研究テーマ
乙黒 美彩	ワイン科学研究センター	ワインの自然発酵における酵母菌叢に及ぼすブドウ熟成期の気温の影響解析
井上 絵梨	ワイン科学研究センター	ワイン産地山梨における地球温暖化に対応する赤ワイン用品種の評価
斉藤 史恵	ワイン科学研究センター	日本ワインの微生物汚染防止に向けた基礎的研究： マスカット・ベリーA由来産膜抑制成分の探索
佐藤 友香	大学教育センター	SDGsとデータサイエンスで山梨をグローバルにとらえる 分離融合教材の開発
宮本 和子	国際交流センター	甲府市中心街の「地域つながり拠点」形成プロセスの検証
井上 久美	工学域基礎教育センター	細胞間物質伝達を光で可視化するバイポーラ電気化学顕微鏡素子の 高感度化に関する研究
武末 裕子	教育学部芸術身体教育講座	山梨のふれてみる美術鑑賞 地域連携によるアプローチの展開
向井 真那	生命環境学部環境科学科	生態学的な観点から考える放置老齡人工林の管理意義
鴨川 明子	教育学部幼小発達教育講座	山梨県の学校において、いかにして女性管理職を増やすか？ —ジェンダーに配慮した初任者教員研修プログラムの策定—
八重樫 咲子	工学部土木環境工学科	環境DNA分析に基づく水生昆虫群集調査手法の検討と甲府盆地に おける水生昆虫多様性の解明

育休取得者にインタビュー

第4弾! 一株式会社はくばく編

本News Letterでは、今年度4回にわたり男性育休取得者にインタビューを行いました。

最終回となる今回は、株式会社はくばくにて育休取得した男性職員のインタビューを掲載します。



氏名：澤登 勇介
所属：株式会社はくばく 生産本部

Q. 育児休暇を取得した期間を教えてください

A. 2012年4月に3週間取得しました。

Q. 育児休暇を取得しようと思ったきっかけを教えてください

A. 初子で双子だったため、育児が大変になるのが分かっていたので取得しようと思いました。

Q. 育児休暇の取得について誰かに相談をしましたか

A. 妻と親、当時の上司に相談しました。

Q. 周りの反応はどうか

A. 長期間休んだわけではないので、特に変わりありませんでした。

Q. 職場は育児休暇を取得しやすい雰囲気でしたか

A. 工場勤務でしたので、個人的に申し訳ない気持ちでしたが、当時の本部長から職場に説明していただき、良い雰囲気取得できました。

Q. 育児休暇中の過ごし方について教えてください

A. 1人が急遽体調不良になり、1週間入院したのですが、病院に泊まり込み、1日中付き添っていました。退院後は2人の育児に専念していました。

Q. 育児休暇を取得して良かった点があれば教えてください

A. 一番は子供と一緒に過ごせる時間が長かったことです。

Q. 育児休暇を取得して悪かった点、困った事があれば教えてください

A. 特にありませんが、社外の方に連絡していなかったので、電話が来て着信音でお昼寝中の子供が起きた時は困りました。

Q. 復職はスムーズに行えましたか

A. 全く問題ありませんでした。

Q. 今後、同じような機会があった場合、また制度を利用したいと思いますか

A. 是非利用したいです。

Q. 今後育児休暇を取得される方にアドバイスなどがあれば教えてください

A. 周囲に育児休暇取得の意思を伝えておくことと、不在時に業務が滞らない様に引継資料を普段から作成しておくこと直前にパタパタすることが無いと思います。

